

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

明神台保育園

横浜市保土ヶ谷区明神台 5-1

運営主体: 社会福祉法人 神奈川厚生福祉会

● 実施概要	1 ページ
● 総合評価 (評価結果についての講評)	2~4 ページ
● 評価領域ごとの特記事項	5~7 ページ
● 分類・項目別評価結果	8~17 ページ
● 利用者家族アンケート分析・集計結果	18~25 ページ
● 利用者本人調査分析	26~27 ページ
● 事業者コメント	28 ページ

公表日: 2018 年 3 月 30 日

実施機関: 特定非営利活動法人市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	明神台保育園（保育所）		
報告書提出日	2018年3月14日	評価に要した期間	8ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

■評価方法

1、自己評価 実施期間 2017年10月4日～2017年11月8日	① 職員会議や打ち合わせ、園内研修で趣旨等を説明し、常勤、非常勤全ての職員個人が記入した。 ② 主任、クラスリーダーが集計をとり、記入しまとめたものを、園長が確認し、最終的にまとめた。
2、利用者家族アンケート調査 実施期間 2017年11月27日～2017年12月8日	① 全園児の保護者（122世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。 ② 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。
3、訪問実地調査 実施日：第1日 2018年1月12日 第2日 2018年1月17日	[第1日] ① 午前：各クラスで保育観察。 ② 昼食：幼児クラス・2歳児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 ③ 午後：書類調査。園長、副園長、主任に面接調査。 [第2日] ① 午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 ② 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 ③ 午後：各クラス担任保育士6名、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名に個別に面接調査。 その後、園長、副園長、主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。
4、利用者本人調査 実施日：第1日 2018年1月12日 第2日 2018年1月17日	① 観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。 ② 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

明神台保育園は相鉄線星川駅から10分ほど坂を登った丘の上の高台にあります。近くには緑豊かな公園が複数あり、子どもたちの散歩コースとなっています。

明神台保育園は、昭和37年（1962年）8月に日本住宅公団の団地内保育所として開設され、55年以上の歴史があります。昭和52年（1977年）4月には、「社会福祉法人厚生福祉会（昭和58年（1983年）に「社会福祉法人神奈川厚生福祉会」として独立）」が設立され、認可保育園となりました。運営法人は、他に同じ保土ヶ谷区内に保育園を1園運営しています。

鉄筋コンクリート造り3階建ての園舎は、宇宙船をイメージしていて、1・2階にそれぞれ広いホールがあります。高台にあるため2階の保育室の一部や屋上からは、みなとみらい・横浜駅などを眺めることができます。広い園庭には、登り棒やタイヤブランコ、砂場などの遊具が設置されています。また、屋上には遊具が設置された遊び場とプールがあります。

定員は130名（0歳児～5歳児）で、開園時間は、平日（月曜日～金曜日）は7時～19時半、土曜日は7時～18時です。

運営法人の保育理念は、「子どもの人権や主体性を尊重し、児童の最善の幸福のために保護者や地域社会と力を合わせ、児童の福祉を積極的に増進し、合わせて地域における子育て支援を行う」、園の保育方針として「のびのび遊ぶ元気な子」「基本的生活習慣を身につけた子どもを育てる」を掲げています。

◆ 高く評価できる点

1、恵まれた自然環境の中、子どもたちは自分らしさを素直に表現し、園生活をのびのびと過ごしています

園の周辺には、県立保土ヶ谷公園や隣接する明神台公園や星川杉山神社など自然豊かな環境があり、子どもたちが季節の移り変わりを肌で感じることができます。晴れていれば毎日のように近隣の散歩に出かけ、オタマジャクシやヤゴを捕えて園で飼育したり、落ち葉や木の実で制作をしたり、雪遊びをしたりなど、四季折々の自然との関わりを楽しんでいます。広い園庭もあり、子どもたちは身体を思いっきり動かして走り回ったり、砂遊びを楽しんだりしています。体作りにも力を入れていて、週1回の外部講師による体操教室（幼児）のほか、日常的にも鉄棒や縄跳び、三輪車や一輪車、ドッジボールなどを取り入れています。

保育士は、子ども一人一人の言葉に耳を傾け、子どもの気持ちを受け止めています。叱る時にも「だめ」というのではなく、子どものやりたい気持ちをいったん受け止めてから、子どもの気持ちを切り替えたり、子どもが理解出来るように説明するなど、個々の子どもに合わせた対応をしています。このような保育士の働きかけのもと、子どもたちは素直に言葉や態度、表情などで自分の気持ちを表現し、保育士に甘えています。観察時にも、絵本読みや制作、散歩など保育の様々な場面で、保育士が子どもに分かるような言葉でたくさん話しかけて子どもの言葉を引き出し、子どもとの言葉のやりとりを楽しんでいる姿を見ることが出来ました。自由遊びの時間には、子どもたちは保育士に見守られ、ブロックを自分の背の高さまで積み上げたり、布を並べてたくさんのお人形さんごっこをしたり、友達と将棋やトランプ、カルタ遊びを楽しんだり、それぞれの年齢に合った好きな遊びを思い思いに楽しんでいます。異年齢の関わりもあり、園庭やホールなどで日常的に交流するほか、3・4・5歳児は異年齢のグループを作り、お店屋さんごっこや運動会の競技など、年間を通して計画的に活動しています。

食育も盛んで、「食べ物大切さを知り、感謝の気持ちをもって食べられる子ども」を目標に掲げ、野菜を育ててクッキング活動をしたり、焼き芋大会やお餅つき、だしの味比べ、サンマの炭火焼き、味噌造りなどの食育活動を行っています。幼児の味噌造りを見て2歳児もクラスの味噌を造ったり、子どもの好きなバジルを育ててクッキングでニョッキやおせんべいを作ったりなど、子どもの声を反映した楽

しい企画がたくさんあります。

このように子どもたちは、様々な経験を重ね、元気いっぱい園生活をそれぞれのペースで楽しんでいます。

2、保育士は子どものためにという思いを共有し、連携して保育にあたっています

園内研修を始めとして、園長は折に触れて保育姿勢「のびのびと遊ぶ元気な子」について職員に伝えています。ユニークなクラス名「ケラ」「トコ」「チョロ」「ズズ」「グング」「パタパ」にも園長の思いが込められています。たとえば、0歳児のケラは「ケラケラと楽しい笑い声が響くように」5歳児のパタパは「パタパと大空を羽ばたく鳥のようにのびのびと成長してほしい」という意味が込められていて、職員に周知しています。

職員は、クラス会議や乳児・幼児会議、職員会議などで目指す保育について話し合い、方向性を共有しています。一斉メールの導入について看護師、栄養士、保育士、事務でチームを組んで検討したり、事故・ヒヤリハットについて看護師が中心になって分析・検討をしたりと、全職員で連携する体制も出ています。

このような取り組みを通し、保育士は子どものためにという思いを共有していて、連携して保育にあたっています。

3、園は地域の施設として地域に根付いています

園は、近隣の3つの自治会および地域の老人会と日常的に交流しています。老人会のお年寄りとは、敬老の日のつどいや焼き芋大会、鏡餅作りなどで交流しています。勤労感謝の日には、幼児が保土谷公園管理事務所、5歳児が近くの交番を訪問するとともに、給食室に出入りしている業者に全クラスの子どもたちが感謝のお手紙を書いて気持ちを伝えています。杉山神社や地域子供会のお祭りの時には、あらかじめ園で盆踊りの練習をしておくなど、子どもたちが地域の一員として地域と関わられるようにしています。

地域の子育て支援としては、一時保育、園庭開放、交流保育を実施しています。園庭開放は毎週水曜日に園庭と1階ホールを開放していて、身体計測、サンタ来園、焼き芋大会、ミニ運動会、育児講座なども行っています。園庭開放時には、担当保育士が育児相談にも応じています。毎週のように参加している親子もいて、地域のセーフティネットとしての役割も果たしています。

園は55年以上の歴史の中で地域との関係を築いていて、地域にはたくさんの卒園生や家族がおり、地域の施設として根付いています。散歩の時には地域住民が子どもたちに手を振ってくれたり、優しく声をかけてくれたりしていて、子どもたちは地域に見守られ様々な経験をし、成長しています。

◆ さらなる改善や工夫が望まれる点

1、現在運営している保育の全体像を文書化し、整合性を取ることが期待されます

園は様々な取り組みを行い、保育をすすめており、その内容は高く評価されるものです。しかしながら、それらを全体として整合性が取れる形にまとめ上げていないものが見られます。たとえば、園が大切にしている保育の方針については、園のしおりや保育課程、事業計画などに記載されているものが少しずつ異なっていて統合が取れていません。職員間で話し合い、自分達の保育との整合性を図ることが期待されます。

また、実践についての文書化も十分とはいえないものがあります。たとえば、保育士一人一人が自己評価を行っているものの、それを園全体の自己評価という視点でまとめるまでには至っていません。

文書化することにより、園の取り組みが仕組みとして周知されるとともに、記録として今後の運営に活かすことができます。文書化への取り組みを進めるとともに、文書の整合性をはかるなど整理・見直しを実施していくことが期待されます。

2、職員の育成を計画的にすすめていくことが期待されます

園の運営を、現状をベースにしてさらに発展し、次世代につなげていくためには人材の育成・教育が重要です。園では、職員がキャリアアップを図れるように研修計画を作成し、職員の研修に力を入れています。職員は、希望する研修に積極的に参加しています。園長はじめ、職員の役職別の職務分担表は作成されており、それに従って業務が遂行されています。しかしながら、経験・能力や習熟度に対応した役割や技術が期待水準として明文化されていません。職員のキャリアアップのモチベーションを高めるために人材育成計画を策定し、キャリアパスの仕組みを作成することが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

※このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

1、人権の尊重

- ・保育目標は、『のびのびと育つ子ども』を目標としています。そして『元気で優しい子ども』の育成を目指します」で、入園のしおり、業務マニュアルに記載し、全職員に園のしおりを配付しています。
- ・虐待が疑われるケースの場合、保土ヶ谷区役所や横浜市西部児童相談所と連携を取るようになっています。
- ・業務マニュアル「人権に配慮した保育」「望ましい保育士としての資質や態度」に子どもへの接し方や言葉遣い、配慮すべきことなどが記載されていて、園内研修で読み合わせするとともに、職員会議でもおりにふれて取り上げ、周知徹底を図っています。
- ・保育室の棚の下に入り込むスペースや子どもの視線に合わせた窓が作られていて、子どもが友達や保育士の視線を意識せずに、くつろいで過ごすことができます。
- ・年度初めの園内研修や職員会議で、守秘義務の意義や目的について、個人情報の取り扱いについて職員に周知しています。個人情報に関する記録は事務室の鍵のかかる棚に保管し、適切に管理しています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・自由遊びの時間には、一人でじっくりとパズルに取り組んだり、友達と一緒にごっこ遊びをしたり、数人でカルタ取りを楽しむなど、子どもたちはそれぞれのペースで好きな遊びをしています。ドッジボールやサッカー、鬼ごっこ、将棋、オセロ、トランプなどのルール性のある遊びを取り入れ、子どもが遊びを楽しみながら、ルールを守るなどの社会性を学べるようにしています。
- ・リズム遊びや手遊び、歌、制作などを多く取り入れ、子どもが自分の気持ちを自由に表現出来るようにしています。子どもが自発的に表現できるよう、保育室には折り紙や制作の素材を豊富に用意されています。
- ・雨でなければ毎日、子どもたちは園庭や屋上で遊んだり、近隣の散歩に出かけたりしています。お散歩マップを作成し、隣接する公園や神社から遠くの公園まで、子どもの年齢や発達、散歩の目的に合わせて行く先を決めています。
- ・子どもたちは朝の自由時間や、園庭、ホールなどで日常的に交流しています。3・4・5歳児は、異年齢の仲良しグループを作り年間を通して活動する仲良しタイムを設けています。運動会のリズム遊びやお店屋さんごっこなど、計画的に交流しています。
- ・子どもの年齢や発達にあわせ、鉄棒やボール遊び、三輪車や一輪車、縄跳びなどを取り入れています。幼児は週1回、専門講師による体操教室があります。
- ・野菜を育ててクッキング活動をしたり、焼き芋大会やだしの味比べ、サンマの炭火焼き、味噌造りなどの食育活動を行っています。
- ・旬の食材を用いた、1汁2菜を基本とした和食中心の献立となっています。ひな祭りやクリスマスなどの季節の行事食、運動会前の世界の料理、卒園前のリクエスト献立など、子どもが食を楽しめるよう献立を工夫しています。食材は国産のものを用いるようにし、食器は陶器を用いています。
- ・5月から12月の原則火曜日に、保育参加を受け入れていて、ほぼ全員が参加しています。1クラス1日1組とし、ゆっくりと見られるようにしています。保育参加時には、給食とおやつを試食と個別面談を実施しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・保育課程に基づき、年齢ごとに年間指導計画、月間指導計画、週案を作成しています。0～2歳児は月

間個別指導計画を作成しています。幼児については、障がい等の診断名がついている場合は、個別指導計画を作成します。

- ・特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢があります。気になる子どもについて、職員会議で話し合われ記録が残されており、情報共有が図られています。
- ・入園のしおりの中に苦情解決システムが記載されています。また重要事項説明書には第三者委員の名前と電話番号が記載されています。
- ・健康管理、感染症対応、衛生管理、安全管理などの各種マニュアルを整備し、職員に周知しています。
- ・子どもの事故やけが、事故にまで至らないヒヤリハットなどは、「子どもの怪我、ひっかき、かみつき等の記録」に記載しています。年度末には看護師が年齢や場所、曜日、内容ごとに集計して分析し、それを基に職員会議や園内研修で検討し、改善に向けて取り組んでいます。

4、地域との交流・連携

- ・近隣の3つの自治会および老人会と日常的に交流していて、自治会長や老人会長との会話や自治会ニュースなどから地域の情報を把握しています。
- ・園の子育て支援としては、一時保育、園庭開放、交流保育を実施しています。園庭開放は毎週水曜日に実施していて、身体計測、サンタ来園、焼き芋大会、ミニ運動会なども行っています。入園前見学会も実施しています。育児講座として、「手作り楽器を作ろう」、「丈夫な身体作り」など毎年内容を変えて実施しています。
- ・散歩の時には保育士と子どもたちは地域住民と挨拶や会話を交わしたり、地域の親子連れと一緒に遊んだりし、交流しています。地域の老人会のお年寄りとは、敬老の日のつどいや焼き芋大会、鏡餅作りなどで交流しています。勤労感謝の日には、幼児が保土谷後援管理事務所、5歳児が近くの交番を訪問するとともに、給食室に出入りしている業者に全クラスの子どもたちが感謝のお手紙を書いて気持ちを伝えています。
- ・「ボランティア・実習・体験学習のしおり」があり、それに基づきボランティアや実習生に対して、園の基本方針や守秘義務、子どもの人権や関わり方について説明しています。

5、運営上の透明性の確保と継続性


- ・職員の倫理綱領、就業規則等で職員が不正な行為を行わないように明文化されています。
- ・夏はゴーヤや朝顔のグリーンカーテンをつくり、床暖房には深夜電力を使うなどして省エネルギーの取り組みをしています。環境への取り組みが、文書化されていないので明文化することが望まれます。
- ・これまで、重要な問題が生じたときには保護者に説明し、理解を求めています。
- ・現在、重要な課題を主任・クラスリーダー・看護師・栄養士からなる検討チームを作って検討しています。
- ・主任はクラスを持たずに現場に入っていく、業務全般を把握するようにしています。主任はリーダー会議や、毎朝のクラスの巡回などを通して、現場の職員の状況を把握しており、職員が良好な状態で仕事ができるように配慮しています。
- ・園長は横浜市保育園園長会、全国私立保育園連盟に参加しており、事業運営に影響のある情報を収集・分析しており、認定こども園などを視野に、新しい園の在り方を研究しています。
- ・平成19～33年を期間とする長期計画、平成29～33年を対象とした中期計画を策定しています。

6、職員の資質向上の促進



- ・研修担当者は主任となっています。個々の職員の研修計画は外部の研修案内などを参考にして作成されています。内部研修が年に2回定期的に行われ、職員は自由に参加できます。横浜市や園外の機関が実施する研修会に参加しています。

- ・「自分みつめチェックリスト」という自己評価シートを、上半期、下半期にそれぞれ 1 回ずつチェックするようになっていきます。
- ・保育園として事業報告書は作成されていますが、園としての自己評価までは作成されていません。職員の自己評価ができていますので、それをまとめた形での園としての自己評価を作成することが期待されます。
- ・園長はじめ、職員の役職別の職務分担表は作成されており、それに従って業務が遂行されています。しかしながら、経験・能力や習熟度に対応した役割や技術が期待水準として明文化されていません。職員のキャリアアップのモチベーションを高めるために、人材育成計画を作成するとともに、キャリアパスの仕組みを明文化することが期待されます。

分類別評価結果

- ※ 横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。
- ※  ←「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。
3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある
- ※ 評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域Ⅰ 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p>  <p>(1)保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。 (2)保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。 (3)日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園のしおりに保育目標として「『のびのびと育つ子ども』を目標としています。そして『元気で優しい子ども』の育成を目指します」としています。さらに保育姿勢として「保育士が、子どもに対し精一杯の愛情をもって保育にあたる」「障害者や老人とも、『優しくふれあえる子ども』の育成に配慮する」「約束事（社会のルール）を守ることの大切さがしっかりと身に付くように保育にあたる」としており、利用者本人を尊重したものとなっています。 ・職員には園のしおりを全員に配付しており、さらに、業務マニュアルにも記載して配布しています。各クラスに掲示しており、全職員は保育理念、方針を理解しています。 ・保育課程は、保育理念に基づき作成されており、子どもの最善の利益を第一義にしています。 ・月間指導計画、週案を作成しており、ともに振り返りの欄があり、日常的に様々な方法で子どもの意見や意思を把握した結果を指導計画の評価、見直しに活かしています。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p>  <p>(1)入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。 (2)新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。 (3)子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会には子どもも一緒に来てもらい、面接時には子どもの様子を細かく観察しています。児童票に、入園までの成育歴や家庭での生活状況を記載しています。 ・新入園時には短縮保育（ならし保育）を実施しています。新入園時には子どもが心理的拠り所とするものを持つてくることを認めています。 ・新入園児でなかなか園に慣れない子どもに対しては、慣れるまでの期間同じ保育士が担当し、慣れたところでクラスの保育士が全員で保育するようにしています。 ・全年齢ともに年間指導計画、月間指導計画、週案を作成しており、指導計画は振り返りを必ず行い次期の計画に反映しています。

I-3 快適な施設環境の確保



- (1)子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)への配慮がなされているか。
- (2)沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3)子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- ・保育室は、窓とドアが大きくとられ、陽光を十分取り入れるような構造となっています。また床暖房、エアコンが設置されており、温湿度計も備えられていて温度・湿度の管理が適切に行われています。
- ・0歳児、1歳児の保育室のトイレには温水シャワーを備えた沐浴設備があり、常に清潔に保たれています。各クラスに給湯器があり、自動水栓で暖かいお湯が出るので、寒い時期でも気持ちよく手洗いをすることができます。
- ・0歳児はたたみスペースとフローリングのスペースを設けています。1歳児と2歳児はそれぞれ2部屋使い、広々とした空間を確保し、小集団保育もできるようにしています。
- ・1階と2階に広いホールがあり、それぞれが日常的な異年齢交流の場として機能しています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- (1)子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しているか。
- (2)子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

- ・0~2歳児は月間個別指導計画を作成しています。幼児については、障がい等の診断名がついている場合は、個別指導計画を作成します。気になる子や配慮を要する子どもについては、月間指導計画、週案に配慮を要する点が記載されています。
- ・入園時に、それまでの家庭の状況、健康状況、発達状況などを生活調査票に記載してもらっています。入園後の子どもの発達記録は児童票に記載しています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- (1)特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。
- (2)障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。
- (3)虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (4)アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができていないか。
- (5)外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

- ・特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢があります。気になる子どもについて、職員会議で話し合わせ記録が残されており、情報共有が図られています。
- ・エレベータはついていませんが、階段は広く取ってあり、さらに、1段ずつの階段の高さを低くとっているため、障がいがあっても階段の上り下りがしやすくなっています。どうしても上り下りできない障がい児の場合でも抱っこしてあがれるようにしています。外出の際には、一人乗り用のベビーカーも用意しました。
- ・気になる子どもや配慮を必要とする子どもと、その他の子どもは特に分けることなく一緒に保育しています。
- ・虐待が疑われるケースの場合、保土ヶ谷区こども家庭支援課や横浜市西部児童相談所と連携を取るようになっています。
- ・入園時に健康管理台帳にアレルギーについて記載してもらいます。食物アレルギーのある場合、医師の診断書を保護者に提出してもらい、園長・主任保育士・担任保育士・栄養士(時には看護師)と保護者で、アレルギーの状態の確認、園での除去食の進め方について面談を必ず行っています。これについては、毎年1回実施し、除去食を確認しています。
- ・外国籍の子どもを受け入れています。受け入れるにあたって文化や宗教を尊重し、必要ならば食生活の違いにも対応し、代替えの食事を持参してもらうことも認めています。

I-6 苦情解決体制



- (1)保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。
- (2)要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

- ・入園のしおりの中に苦情解決システムが記載されています。また重要事項説明書には第三者委員の名前と電話番号が記載されています。
- ・年度の初めに「あなたの意見を聞かせてください」という自由回答形式のアンケートを配布しており、保護者の要望、苦情を聞いています。さらに、保護者全員に日程を調整して保育参加をしてもらっていますが、終了後、個別面談する機会を作り、要望・意見を聞いています。
- ・要望や苦情があった時には、すぐにクラスリーダーや主任・副園長、園長に報告し、必要に応じて対応策を検討するようにしています。結果については職員会議に報告され、周知を図っています。相談（苦情）記録があり、苦情の内容とそれに対する対応がきちんと記載されています。

評価領域 II サービスの実施内容

評価分類

評価の理由（コメント）

II-1 保育内容[遊び]



- (1)子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。
- (2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。
- (3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。
- (4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。
- (5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。
- (6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中でのなされているか。

- ・保育室にはままごとコーナーなどの遊びのコーナーが設けられていて、子どもが落ち着いて遊べるよう環境構成しています。季節や子どもの発達に応じて、おもちゃの入れ替えやレイアウトの見直しをしています。
- ・自由遊びの時間には、一人でじっくりとパズルに取り組んだり、友達と一緒にごっこ遊びをしたり、数人でカルタ取りを楽しむなど、子どもたちはそれぞれのペースで好きな遊びをしています。ドッジボールやサッカー、鬼ごっこ、将棋、オセロ、トランプなどのルール性のある遊びを取り入れ、子どもが遊びを楽しみながら、ルールを守るなどの社会性を学べるようにしています。
- ・園庭やプランターでジャガイモやピーマン、トマト、なす等の野菜を育て調理して食べたり、制作に用いるなどしています。園庭のヤマモモでジャムを作ることもあります。近隣には自然豊かな公園が複数あり、季節の移り変わりを楽しむことができます。
- ・リズム遊びや手遊び、歌、制作などを多く取り入れ、子どもが自分の気持ちを自由に表現出来るようにしています。子どもが自発的に表現できるよう、保育室には折り紙や制作の素材を豊富に用意されています。
- ・けんかなど子ども同士のもめ事については、保育士は自分たちで解決出来るよう見守り、必要に応じて間に入って双方の気持ちを確認し、言葉を足すなど支援しています。言葉で自分の気持ちを表現出来ない乳児の場合には、保育士が間に入って止め、仲立ちしています。
- ・子どもたちは朝の自由時間や、園庭、ホールなどで日常的に交流しています。3・4・5歳児は、異年齢の仲よしグループを作り年間を通して活動する仲よしタイムを設けています。運動会のリズム

遊びやお店屋さんごっこなど、計画的に交流しています。

- ・雨でなければ毎日、子どもたちは園庭や屋上で遊んだり、近隣の散歩に出かけたりしています。お散歩マップを作成し、隣接する公園や神社から遠くの公園まで、子どもの年齢や発達、散歩の目的に合わせて行く先を決めています。散歩の距離を少しずつ延ばしていき、5歳児になると野毛山動物園まで歩いて遠足に出かけています。
- ・子どもの年齢や発達にあわせ、鉄棒やボール遊び、三輪車や一輪車、縄跳びなどを取り入れています。幼児は週1回、専門講師による体操教室があります。

Ⅱ-1 保育内容[生活]



- (7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

- ・保育士は子ども一人一人の食べられる量を把握し、完食できるように量を調整しています。幼児は食べられる量を自分で申告しています。子どもが苦手な食材については、少しでも食べるよう声がけをしていますが、強制することはありません。
- ・「食べ物の大切さを知り、感謝の気持ちをもって食べられる子ども」を目標に掲げ食育計画を作成しています。野菜を育ててクッキング活動をしたり、焼き芋大会やだしの味比べ、サンマの炭火焼き、味噌造りなどの食育活動を行っています。子どもの好きなバジルを育ててクッキングでニョッキやおせんべいを作ったりと、食育活動には子どもの声も反映しています。
- ・旬の食材を用いた、1汁2菜を基本とした和食中心の献立となっています。給食の時には、皆でテーブルを囲み、保育士も一緒に楽しくおしゃべりをしながら食事をしています。ひな祭りやクリスマスなどの季節の行事食、運動会前の世界の料理、卒園前のリクエスト献立など、子どもが食を楽しめるよう献立を工夫しています。食材は国産のものを用いるようにし、食器は陶器を用いています。
- ・栄養士、園長、主任、看護師、保育士が参加する毎月の給食会議で子どもの喫食状況について話し合い、切り方や調理方法を工夫しています。毎年6月に2週間の残食調査を実施し、クラスごとに残食率を出して検討し、献立作成に反映しています。
- ・毎月、献立表と給食だよりを保護者に配付しています。保育参加の時には、給食と午後のおやつを試食をしてもらい、アンケートで保護者の感想を聞いています。0歳児は、年度初めのクラス懇談会で離乳食の試食会を行い、栄養士が説明しています。
- ・眠れない子ども、眠くない子どもには午睡を強要せず、布団の上で静かに身体を休める時間としています。5歳児は1月のクラス懇談会後から午睡を一斉活動としていません。
- ・一人一人の子どもの排泄リズムを把握し、個人差を尊重しています。紙パンツが濡れていない時に声をかけてトイレに座ってみることから始め、排泄の間隔が長くなりトイレで成功するようになったら、保護者と相談して意向を確認し、トイレトレーニングを始めています。子どもや保護者の状況にあわせ、無理なく進めるようにしています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- (1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。
- (2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。
- (3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

- ・業務マニュアルの「健康観察のポイント」に基づき、登園時に一人一人の子ども健康状態を観察しています。降園時には、園での子どもの状況について保護者に口頭で伝え、降園後の対応について話し合っています。
- ・0歳児の2月頃に歯ブラシを持つてみることから始め、1歳児からは食後の歯磨きをしています。1・2歳児は保育士が仕上げ磨きをしています。3歳児以上は皆で一斉に歯磨きをしています。また、1歳児から手洗いやうがいなどの指導をしています。
- ・年2回の健康診断、年1回の歯科健診、毎月の身体測定を行っていて、結果を児童健康台帳、歯科健康診査票に記載しています。健康診断、歯科健診の結果は、専用の用紙を用いて保護者に伝えています。
- ・感染症対応マニュアルがあり、入園のしおりに登園停止基準や保育中に感染症の疑いが生じた場合の対応を記載し、保護者に周知しています。感染症が発生した場合には、玄関外の掲示板に掲示し、感染症の症状、潜伏期間、感染期間、登園基準、医師の治癒証明書の要不要などの情報提供をしています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- (4)衛生管理が適切に行われているか。

- ・衛生管理に関するマニュアルがあります。年度末にマニュアルの見直しをし、職員に周知しています。また、横浜市青少年局や子ども医療センターなどの研修で新しい情報を得た場合には、その都度見直しをしています。嘔吐処理等についての園内研修を実施しています。
- ・マニュアルに基づいて清掃が行われていて、園内は清潔に保たれています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- (5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
- (6)事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。
- (7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・安全管理に関するマニュアルがあり、地震災害対策、不審者対応、ケガ事故対応、ケガ事故防止など、事故や災害に適切に対応しています。家具や備品等は、地震等を想定し、固定ないしは滑り止めが施されています。
- ・毎月、火事や地震を想定し、朝、午後、夕方、散歩中など様々な設定で避難訓練を実施しています。5歳児は防災センターの見学に出かけ、災害時の対応について学んでいます。救命救急法とAED使用法の園内研修を実施しています。
- ・子どものケガについては、軽傷であっても必ず保護者に伝えています。子どもの事故やけが、事故にまで至らないヒヤリハットなどは、「子どもの怪我、ひっかき、かみつきの記録」に記載しています。年度末には看護師が年齢や場所、曜日、内容ごとに集計して分析し、それを基に職員会議や園内研修で検討し、改善に向けて取り組んでいます。
- ・門や玄関は施錠しています。不審者対応マニュアルがあり、年1回、不審者対策訓練を実施しています。

Ⅱ－３ 人権の尊重



- ・業務マニュアル「人権に配慮した保育」「望ましい保育士としての資質や態度」に子どもへの接し方や言葉遣い、配慮すべきことなどが記載されていて、園内研修で読み合わせするとともに、職員会議でもおりにふれて取り上げ、周知徹底を図っています。また、

- (1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- 自己評価表「自己見つけチェックシート」にも子どもへの関わり方についての項目があり、保育士が年2回振り返りをしています。園長・副園長・主任は、保育の様子を見て回り、気になる時に指導やアドバイスをしています。全クラス複数担任となっていて、気になる時には入れ替わったり、声を掛け合ったりしています。
- ・保育室の棚の下に入り込むスペースや子どもの目線に合わせた窓が作られていて、子どもが友達や保育士の視線を意識せずに、くつろいで過ごすことができます。子どものプライバシーを守る場所としては、ホール（あそびの広場、わいわい広場）や事務室などがあります。
 - ・年度初めの園内研修や職員会議で、守秘義務の意義や目的について、個人情報の取り扱いについて職員に周知しています。ボランティアや実習生に対しては、オリエンテーション時に説明しています。個人情報に関する記録は事務室の鍵のかかる棚に保管し、適切に管理しています。
 - ・遊びや行事の役割、順番、グループ分けなどで性別による区別をしていません。男女による区別と差別の違いについて職員会議で共通認識し、プール時の着替えなど、年齢に応じた男女の区別についての指導をしています。



Ⅱ－４ 保護者との交流・連携




- (1)保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。
- (2)個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。
- (3)保護者の相談に応じているか。
- (4)保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。
- (5)保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。
- (6)保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。


- ・ホームページ、パンフレット、入園のしおりに目標と保育姿勢を明記するとともに、保育室に掲示しています。年度初めの全体保護者会、クラス懇談会で、園の基本方針について説明しています。
- ・登降園時には、保護者とコミュニケーションを取り、その日の子どもの様子を伝えています。0・1・2歳児は連絡帳を用い、保護者と情報交換しています。保育参加後に、保護者と個別面談し、ゆったりと時間を取り、担任2人で対応しています。
- ・保護者からの相談には相談室を用いています。相談を受けた保育士は、園長、主任に報告し、助言を受けています。相談内容は個別面談記録票に記録して個人ファイルに綴じ込み、継続的にフォローしています。
- ・毎月、園だより、給食だよりを発行しています。クラス便りを不定期に発行し、クラスの様子や行事に取り組む子どもの様子などを伝えています。3・4・5歳児は、クラスノートを用いて保育の様子を知らせています。
- ・年2回のクラス懇談会では、保育内容や目的、子どものエピソードなどを保護者に伝えています。
- ・5月から12月の原則火曜日に、保育参加を受け入れていて、ほぼ全員が参加しています。1クラス1日1組とし、ゆっくりと見られるようにしています。保育参加時には、給食とおやつを試食と個別面談を実施しています。事情により火曜日以外を希望する場合は、他の曜日も受け入れていています。
- ・保護者の自主的な組織はありませんが、卒園式後の保護者主催のお別れ会の話し合いに場所の提供をしています。お別れ会には、園長と担任が参加しています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <p>(1)地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。 (2)地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の3つの自治会および老人会と日常的に交流していて、自治会長や老人会長との会話や自治会ニュースなどから地域の情報を把握しています。また、園庭開放の参加者から地域の子育て支援ニーズを把握しています。保土ヶ谷区子育て支援会議、星川エリア連絡会に参加し、地域の子育て支援について話し合っています。 ・園の子育て支援としては、一時保育、園庭開放、交流保育を実施しています。園庭開放は毎週水曜日に園庭とあそびの広場（1階ホール）を開放していて、毎週のように参加している親子もいます。園庭開放時には、身体計測、サンタ来園、焼き芋大会、ミニ運動会なども行っています。入園前見学会も実施しています。育児講座として、「手作り楽器を作ろう」、「丈夫な身体作り」、「ナースと話そう」など毎年内容を変えて実施しています。内容は育児支援担当（乳児担任）が中心になり決めています。
<p>Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</p>  <p>(1)地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。 (2)相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放時には、保土ヶ谷区子育て支援センターなどの資料を置き、情報提供しています。毎週水曜日の園庭開放時に担当職員が育児相談を受け付けています。 ・焼き芋大会、運動会などのポスターを園のフェンスに掲示しています。園庭開放の参加者に焼き芋大会やサンタ来園などの園の行事の情報提供をしています。 ・保土ヶ谷区役所、西部児童相談所、横浜市西部地域療育センターなど、必要な関係機関のリストがあります。関係機関との連携の担当は園長で、日常的に連携しています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営




評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>  <p>(1)保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。 (2)子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園の行事に自治会役員、老人会、園庭開放の参加者を招待しています。地域の老人会とは敬老のつどいやお餅つきなど、計画的に交流しています。幼小保連携事業に参加し、小学校と交流しています。 ・隣接する杉山神社の行事の際に駐車場を貸し出しています。地域の高校の文化祭に三輪車を貸し出したこともあります。近隣との友好的な関係を築くために、近隣の掃除や雪かきをしています。 ・散歩の時には保育士と子どもたちは地域住民と挨拶や会話を交わしたり、地域の親子連れと一緒に遊んだりし、交流しています。地域の老人会のお年寄りとは、敬老の日のつどいや焼き芋大会、鏡餅作りなどで交流しています。勤労感謝の日には、幼児が保土ヶ谷後援管理事務所、5歳児が近くの交番を訪問するとともに、給食室に入りしっている業者に全クラス子どもたちが感謝のお手紙を書いて気持ちを伝えていきます。 ・星川エリアネットワークに属し、カルタ大会に参加するなどして他

	<p>園の子どもたちと交流しています。年長児は星川地区年長児交流に参加し、公園で遊んだり、ドッジボールをしたりしています。また、5歳児は、小学校見学に行き交流しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉山神社や地域子供会のお祭りの時には、前もって園で盆踊りの練習をしておき、子どもたちが地域の行事に参加できるようにしています。
<p>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</p>  <p>(1)将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。 (2)利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット、ホームページを用い、園の情報を提供しています。横浜市のホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」、保土ヶ谷区のホームページ「子育て情報ぴよぴよぼっけ」に園の情報を掲載しています。また、保土ヶ谷区子育て支援連絡会の「ほどぴよマップ」にも掲載しています。 ・園庭開放時に見学会を実施していて、園長、主任がゆっくり丁寧に園内を案内し、パワーポイントを用いて園の基本方針や利用条件、一年の行事や食事、普段の保育の様子などについて、具体的に分かりやすく説明しています。曜日が利用希望者の都合と合わない時には、個別に相談に応じています。
<p>IV-3 ボランティア・実習の受け入れ</p>  <p>(1)ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。 (2)実習生の受け入れを適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティア・実習・体験学習のしおり」があり、それに基づきボランティアや実習生に対して、園の基本方針や守秘義務、子どもの人権や関わり方について説明しています。受け入れにあたり、職員に対しては職員会議で、保護者に対しては園だよりで説明しています。受け入れの担当は主任で、記録があります。 ・3つの中学校の体験学習、保土ヶ谷区社会福祉協議会の「夏休みちよっとだけボランティア」の学生を受け入れています。ボランティア終了時には、感想を聞いたり、感想文を書いてもらったりしています。 ・保育実習生や看護実習生を受け入れていて、学校のプログラムに沿い、実習生の希望を聞きながら実習のプログラムを作成しています。実習中は、毎日受け入れクラスの担任と反省会をしています。看護実習生は、最終日にカンファレンスを行っていて、看護師も出席しています。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p>  <p>(1)保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。 (2)職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。 (3)非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の人材構成は園長が常に把握し人材の補充を図っています。 ・園の理念や方針は必ずしも明確ではありません。園のしおりに記載されている「目標と保育姿勢」の内容と、保育課程に記載されている「保育理念」「保育方針」「保育目標」とは違いがあります。さらに、園の事業計画に記載されている内容も異なっており、統合が取れていません。統一的な理念、方針を作成して、人材育成に取り組むことが求められます。 ・研修担当者は主任となっています。個々の職員の研修計画は外部の研修案内などを参考にして作成されています。 ・内部研修が年に2回定期的に行われており、職員は自由に参加できます。横浜市や園外の機関が実施する研修会に参加しています。 ・非常勤職員の指導担当者は主任及びクラスリーダーが行っており、職員間の適切なコミュニケーションがとられています。非常勤職員も園内研修に参加することができ、資質向上への取り組みが行われています。
<p>V-2 職員の技術の向上</p>  <p>(1)職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。 (2)保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を評価し、改善に努める仕組みがあるか。 (3)保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分みつめチェックリスト」という自己評価シートを、上半期、下半期にそれぞれ1回ずつチェックするようになっています。ここでは、保育の理念、保育の内容、地域社会との関わりといった項目について評価するものです。 ・職員は自己評価の結果を実践の改善に結びつけたり、次期の計画作成に反映しています。 ・保育園として事業報告書は作成されていますが、園としての自己評価までは作成されていません。職員の自己評価ができていますので、それをまとめた形での園としての自己評価を作成することが期待されます。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p>  <p>(1)本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は年度の中間時点で職員と面接し、現在の仕事のやりがい、満足度を聞いており、さらに次年度の担当する年齢クラス、その他の要望を聞き取っています。 ・園長はじめ、職員の役職別の職務分担表は作成されており、それに従って業務が遂行されています。しかしながら、経験・能力や習熟度に対応した役割や技術が期待水準として明文化されていません。職員のキャリアアップのモチベーションを高めるために、キャリアパスの仕組みを作成することが期待されます。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p>  <p>(1)事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。 (2)サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の倫理綱領、就業規則等で職員が不正な行為を行わないように明文化されています。職員は日常業務をこれらの法・規範・倫理綱領に基づいて行動しています。 ・ 夏はゴーヤや朝顔のグリーンカーテンをつくり、床暖房には深夜電力を使うなどして省エネルギーの取り組みをしています。 ・ 環境への取り組みが、文書化されていませんので明文化することが望まれます。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>  <p>(1)保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。 (2)重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。 (3)主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の目標と保育姿勢を記載した入園のしおりを職員に渡しています ・ 園長の保育に対する思いは「のびのびと遊ぶ元気な子」の育成を目指しています。しかしながら、入園のしおりや園のパフレット、保育課程それに事業計画など書かれている園の目標、保育姿勢、保育理念、などの用語が統一されておらず、それぞれの内容もバラバラです。保育の目指す方向性を統一するためにも、文書類は統一した整合性のある表記にすることが望まれます。 ・ これまで、重要な問題が生じたときには保護者に説明し、理解を求めています。 ・ 現在、重要な課題を主任・クラスリーダー・看護師・栄養士からなる検討チームを作って検討しています。 ・ 主任はクラスを持たずに現場に入っていく、業務全般を把握するようにしています。主任はリーダー会議や、毎朝のクラスの巡回などを通して、現場の職員の状況を把握しており、職員が良好な状態で仕事ができるように配慮しています。
<p>VI-3 効率的な運営</p>  <p>(1)外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。 (2)保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園長は横浜市保育園園長会、全国私立保育園連盟に参加しており、事業運営に影響のある情報を収集・分析しており、認定こども園などを視野に、新しい園の在り方を研究しています。 ・ 平成 19～33 年を期間とする長期計画、平成 29～33 年を対象とした中期計画を策定しています。 ・ 園長、副園長、リーダー等の幹部職員を計画的に育成しています。また、公認会計士など外部の専門家に相談する仕組みがあります。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2017年11月27日～12月8日
- 2、実施方法 ①保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
②各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 68%（122枚配付、83枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス…12人、1歳児クラス…16人、2歳児クラス…11人、3歳児クラス…17人、
4歳児クラス…12人、5歳児クラス…14人、無回答…1人

※ 同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

※ 文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

・保育園の保育目標については、「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者の割合が合わせて81.9%ですが、その中で保育園の保育方針に「賛同できる」（70.6%）、「まあ賛同できる」（29.4%）と合わせると100%と全員が賛同できるという回答でした。

・問2～7までの項目の中では多くの項目が90%以上の満足度を示していますが、特に問4の日常の保育内容に関して満足度が高かったといえます。「遊びについて」では「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動について」「園のおもちゃや教材について」「クラスの活動や遊びについて」では97.6%と高い満足でした。これ以外の項目もすべて90%以上の満足度でした。「生活について」では「給食の献立内容」（100.0%）、「お子さんが給食を楽しんでいるかについて」（97.6%）、「お子さんの体調への気配りについて」（97.6%）をはじめとして、やはり7項目中5項目でした。問5の「保育園の快適さや安全対策などについて」でも「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについて」（100%）をはじめとして4項目すべて、問2の「お子さんが入園する時の状況」でも「入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応について」（96.4%）など6項目中5項目、問7の「職員の対応について」でも「あなたのお子さんが大切にされているかについて」「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについて」（98.9%）など5項目中項目中4項目と満足度90%以上でした。

・これに対して、不満の割合が10%を超えている項目は全項目37項目の中で、わずか1項目でした。問6の中の「送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換について」（21.7%）でした。

・総合的な満足度は「満足」が79.5%とほぼ8割を占めています。これに「どちらかといえば満足」（18.1%）を合わせると97.6%と極めて高い満足度でした。

・自由記述では「空調や床暖房、プール、ローラー滑り台による2方向避難など、十分すぎる設備があり、ぜいたくなほどです」といったハードの面で満足している意見や「年に一度保育参観後、2人の担任と面談があり、園と家庭の様子や心配事を意見交換ができる」「給食が大変おいしく、栄養もあり、食育という観点からも幸せだと思う」といったソフト面での満足な意見が出されていました。これに対して「担任の先生がお迎え時にいないときは、子どもの様子やお願い事をしにくくなる状態にある」といった意見も見られました。

◆まとめ

今回のアンケートは、総合満足度で「満足」がほぼ8割、これに「どちらかといえば満足」を加えると97.6%とほとんど全員が満足しているといえる結果でした。一つ一つの項目についても、37項目中29項目が9割以上の満足度を示しており、反対に「不満」の割合が10%を上回ったのが1項目のみですべての面で満足度が高いアンケート結果となっています。自由意見でも、園の建物、その中で運営されている園の保育の内容についても高い評価が得られていました。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間：2017年11月27日～12月8日

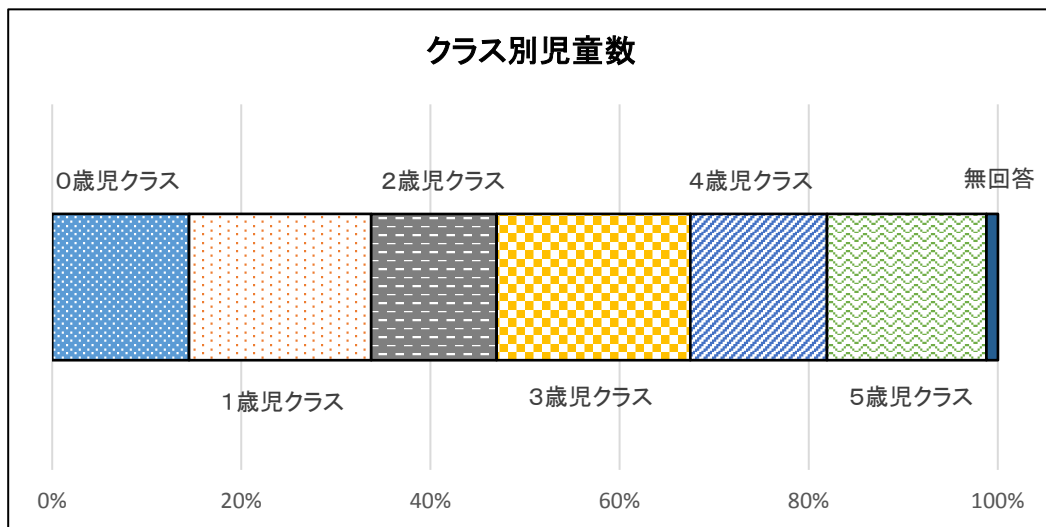
回収率：68.0%（回収83枚／配付122枚）

【属性】

クラス別児童数 (人)

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
83	12	16	11	17	12	14	1

※同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入

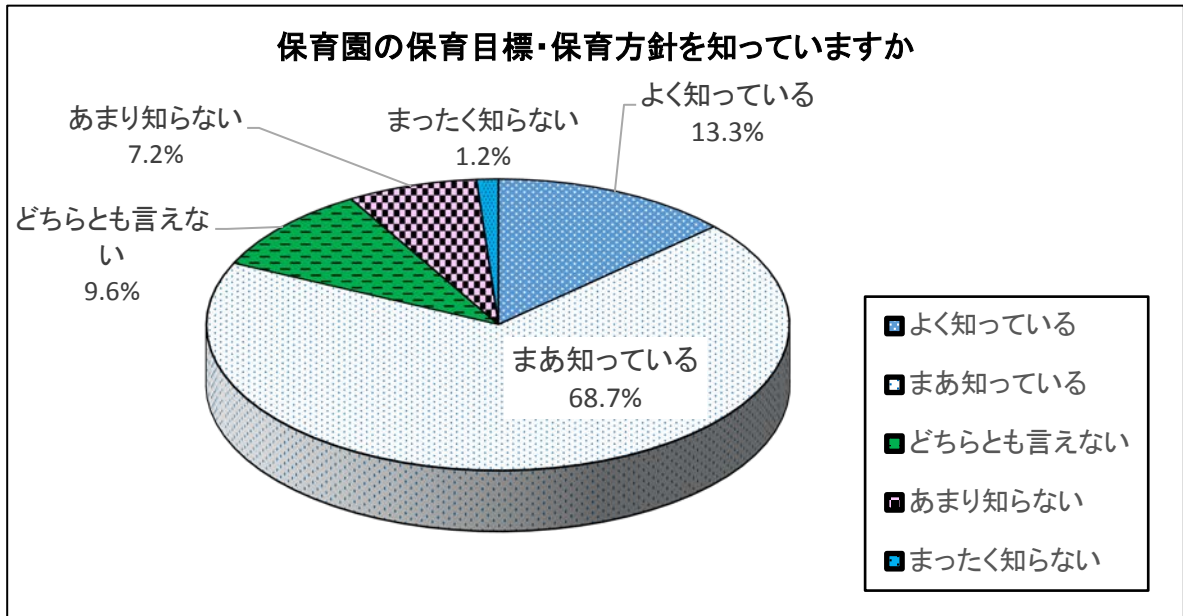


■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 保育園の保育目標・保育方針を知っていますか。

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	13.3%	68.7%	9.6%	7.2%	1.2%	0.0%	100.0%

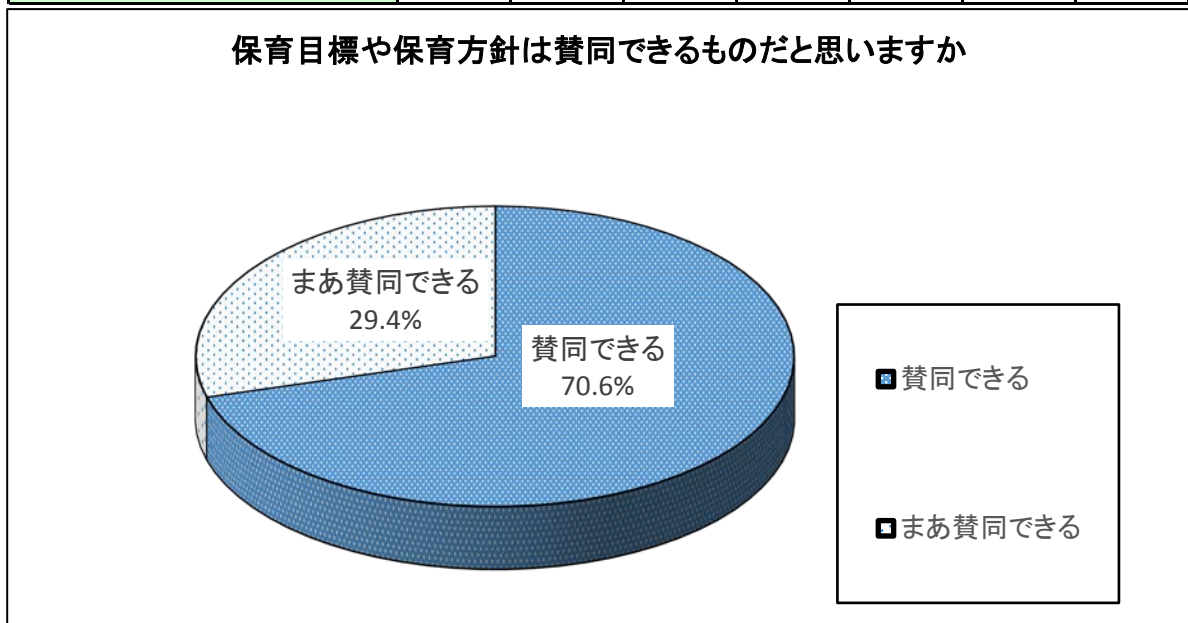
(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)



「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1 その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	70.6%	29.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

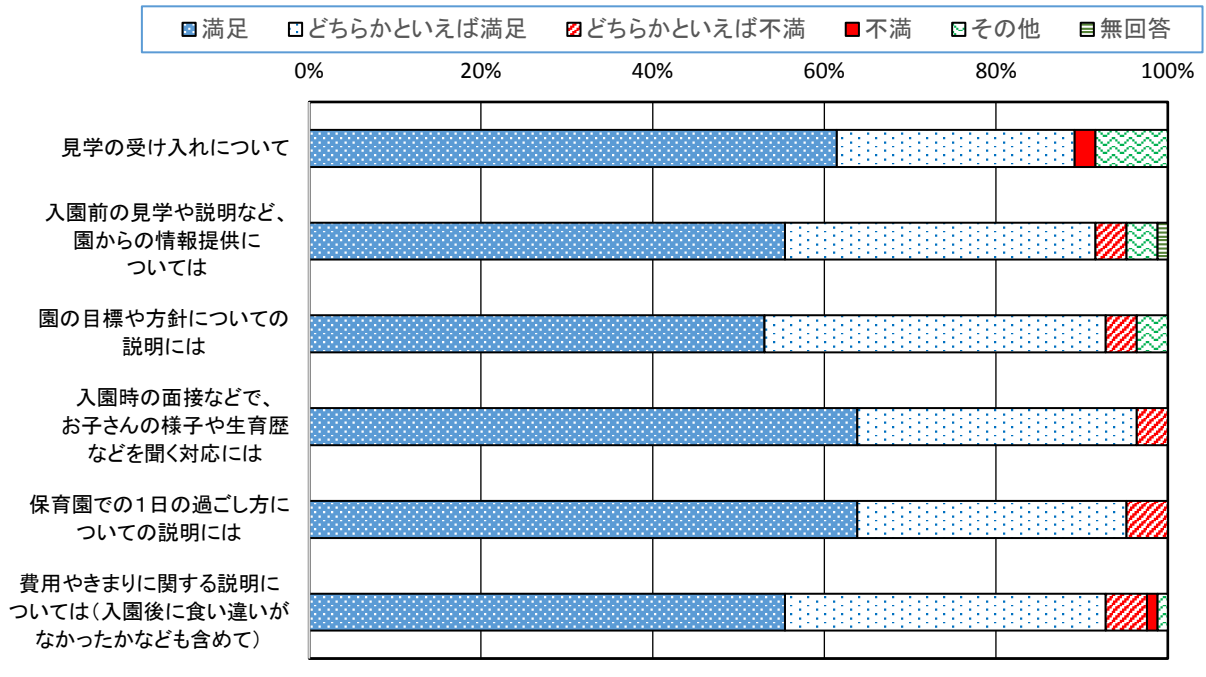


■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	61.4%	27.7%	0.0%	2.4%	8.4%	0.0%	100.0%
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	55.4%	36.1%	3.6%	0.0%	3.6%	1.2%	100.0%
園の目標や方針についての説明には	53.0%	39.8%	3.6%	0.0%	3.6%	0.0%	100.0%
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	63.9%	32.5%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
保育園での1日の過ごし方についての説明には	63.9%	31.3%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	55.4%	37.3%	4.8%	1.2%	1.2%	0.0%	100.0%

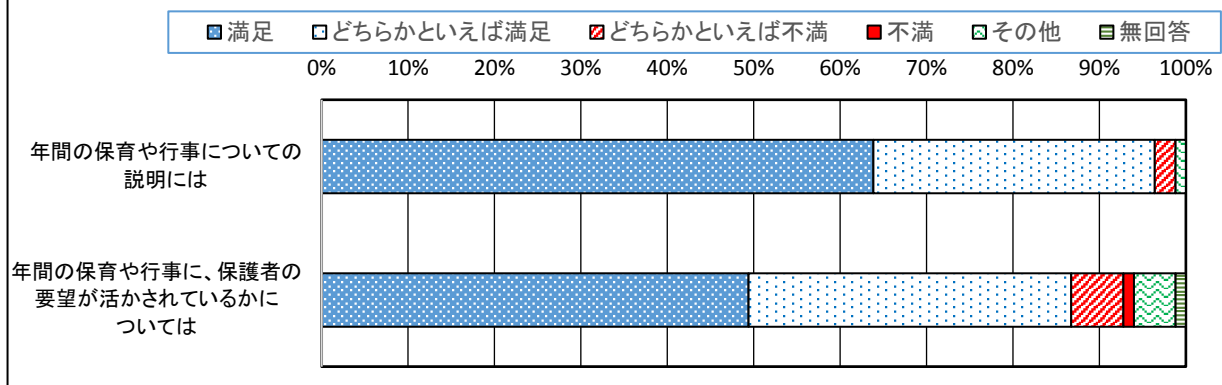
入園時の状況について



問3 保育園に関する年間の計画についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	63.9%	32.5%	2.4%	0.0%	1.2%	0.0%	100.0%
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	49.4%	37.3%	6.0%	1.2%	4.8%	1.2%	100.0%

年間の計画について

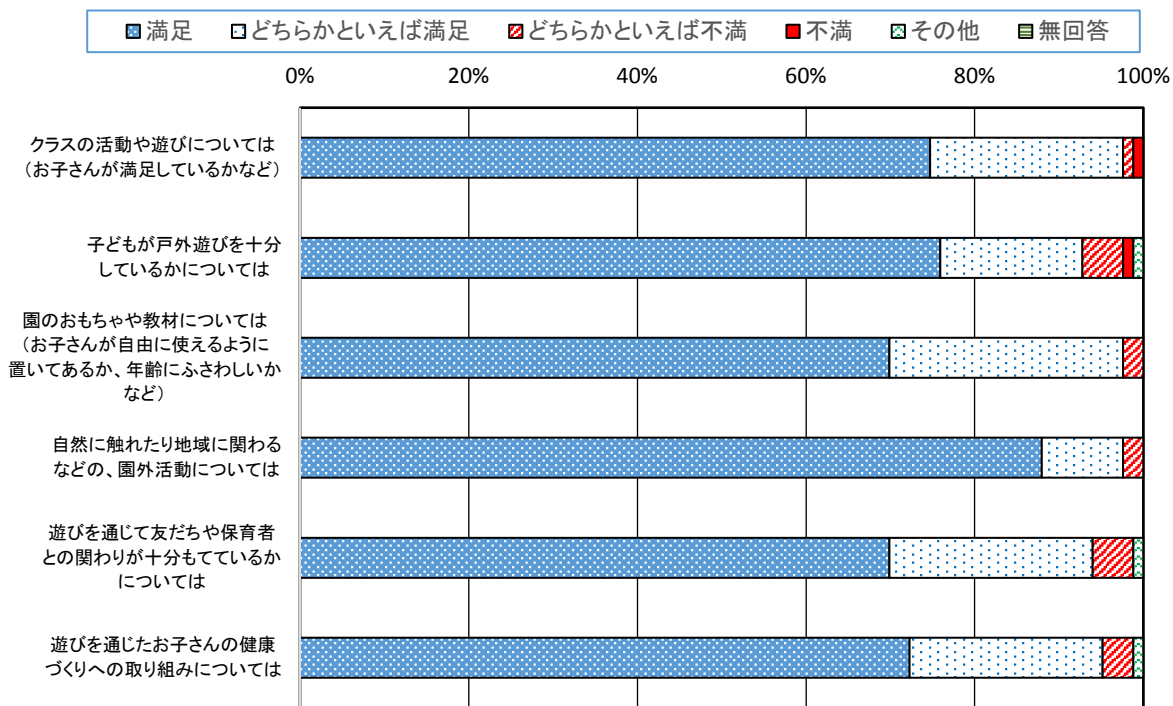


問4 日常の保育内容についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

●「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	74.7%	22.9%	1.2%	1.2%	0.0%	0.0%	100.0%
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	75.9%	16.9%	4.8%	1.2%	1.2%	0.0%	100.0%
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	69.9%	27.7%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	88.0%	9.6%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	69.9%	24.1%	4.8%	0.0%	1.2%	0.0%	100.0%
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	72.3%	22.9%	3.6%	0.0%	1.2%	0.0%	100.0%

日常の保育内容「遊び」について

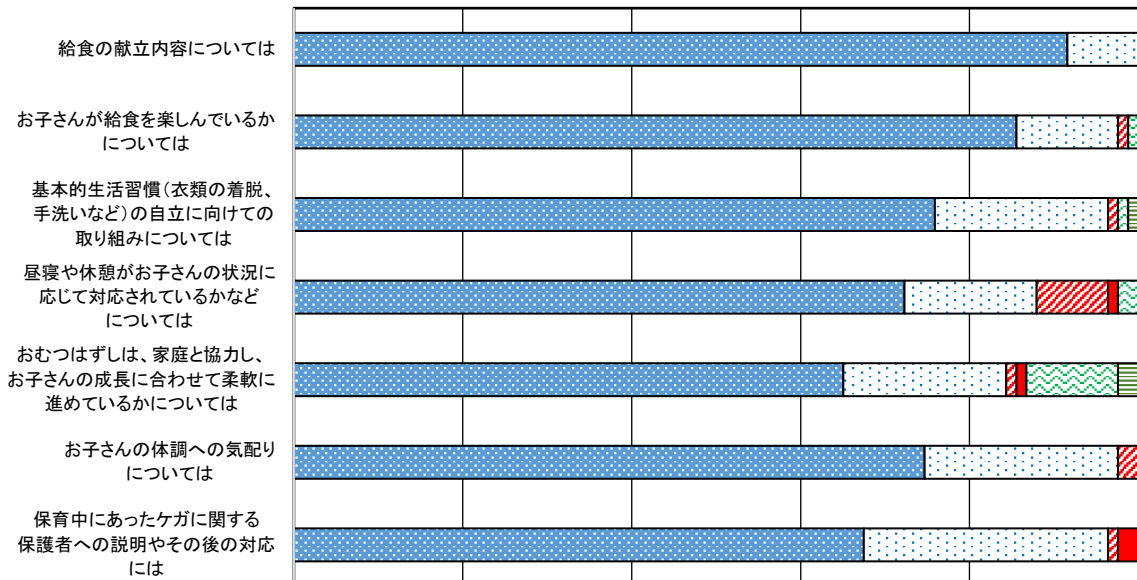


●「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	91.6%	8.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	85.5%	12.0%	1.2%	0.0%	1.2%	0.0%	100.0%
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	75.9%	20.5%	1.2%	0.0%	1.2%	1.2%	100.0%
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	72.3%	15.7%	8.4%	1.2%	2.4%	0.0%	100.0%
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	65.1%	19.3%	1.2%	1.2%	10.8%	2.4%	100.0%
お子さんの体調への気配りについては	74.7%	22.9%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	67.5%	28.9%	1.2%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%

日常の保育内容「生活」について

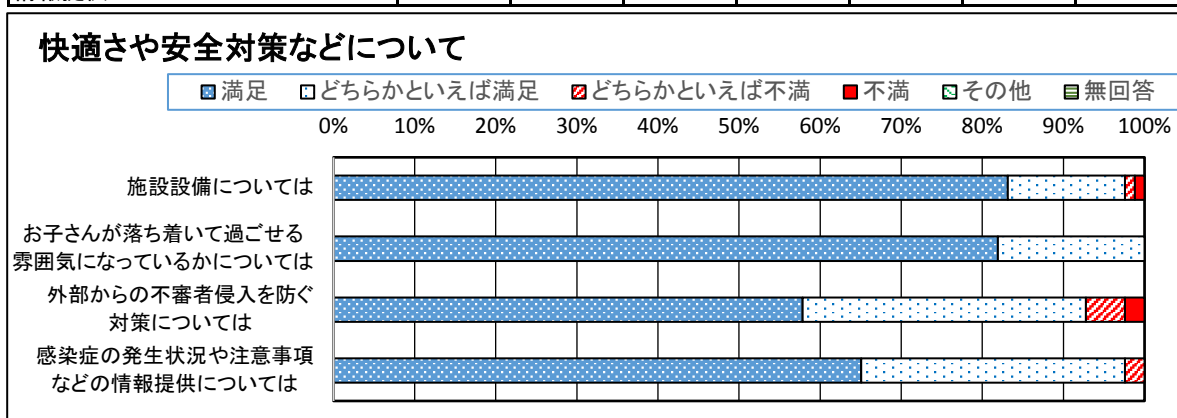
■満足 □どちらかといえば満足 ▨どちらかといえば不満 ■不満 ▨その他 ■無回答

0% 20% 40% 60% 80% 100%



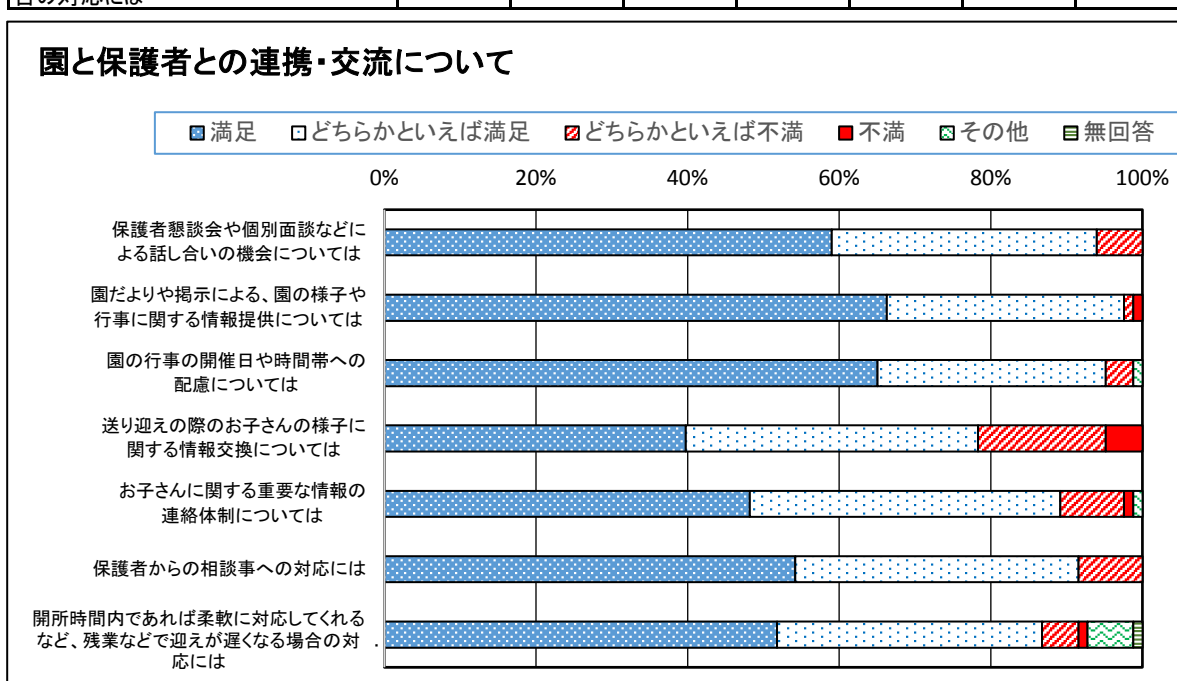
問5 保育園の快適さや安全対策などについてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	83.1%	14.5%	1.2%	1.2%	0.0%	0.0%	100.0%
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	81.9%	18.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	57.8%	34.9%	4.8%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	65.1%	32.5%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



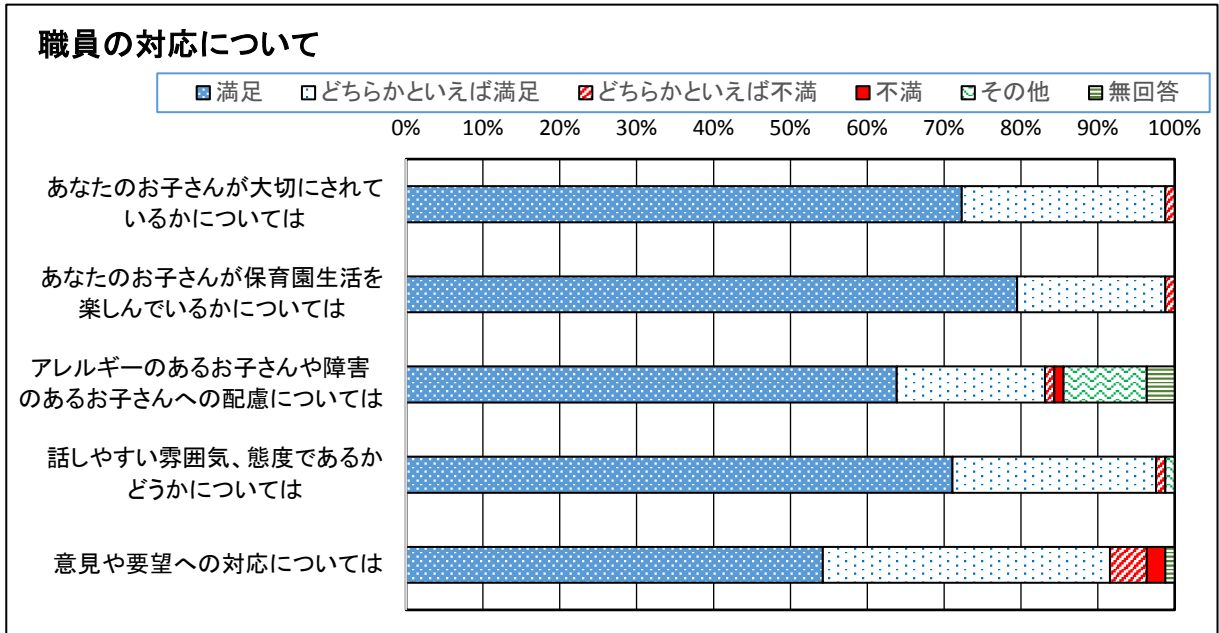
問6 園と保護者との連携・交流についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	59.0%	34.9%	6.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	66.3%	31.3%	1.2%	1.2%	0.0%	0.0%	100.0%
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	65.1%	30.1%	3.6%	0.0%	1.2%	0.0%	100.0%
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	39.8%	38.6%	16.9%	4.8%	0.0%	0.0%	100.0%
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	48.2%	41.0%	8.4%	1.2%	1.2%	0.0%	100.0%
保護者からの相談事への対応には	54.2%	37.3%	8.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	51.8%	34.9%	4.8%	1.2%	6.0%	1.2%	100.0%



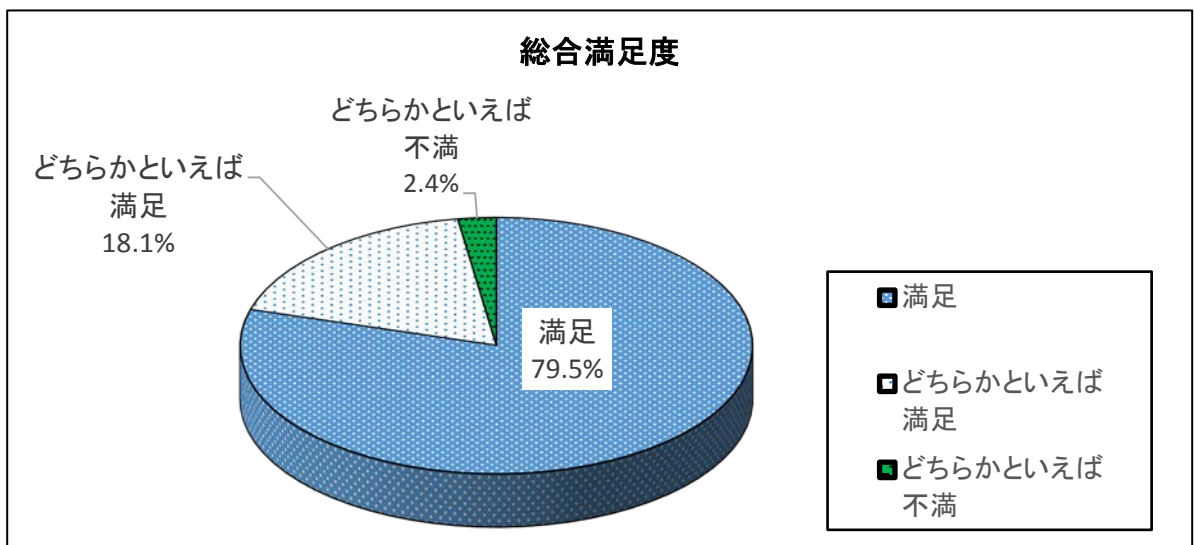
問7 職員の対応についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	72.3%	26.5%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	79.5%	19.3%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	63.9%	19.3%	1.2%	1.2%	10.8%	3.6%	100.0%
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	71.1%	26.5%	1.2%	0.0%	1.2%	0.0%	100.0%
意見や要望への対応については	54.2%	37.3%	4.8%	2.4%	0.0%	1.2%	100.0%



問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足していますか。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	79.5%	18.1%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%



利用者（園児）本人調査 分析

◆ 観察調査 ①1月12日（金）9:00～17:00 ②1月17日（水）9:00～17:00

※ 観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

◆ 0歳児クラス（ケラ組）

朝の会で、保育士の歌に合わせて、子どもたちは音楽に合わせて身体をゆすり、覚えている言葉だけ一緒に歌ったり、手をたたいたりしています。おやつを食べてから、隣の明神台公園に散歩に行きます。途中ですれ違う近隣住民に「いってらっしゃい」と見送ってもらい、公園にいる親子連れとも挨拶を交わします。空を飛ぶ飛行機を見ながら広いグラウンドで飛行機の真似をしたり、保育士が上げるたこを追いかけたりして走り回ります。ボールを蹴って遊んだり、ビニール袋で作った小さなたこで遊ぶ子どももいます。子どもたちは寒さも気にせず、たくさん身体を動かします。十分に身体を動かした後は、枯れ葉で遊びながら園に向かいます。

園に戻ると給食です。保育士にスプーンですくうのを手伝ってもらったり、「おいしいね」「じょうず」「もぐもぐ」などとたくさん声をかけてもらい、楽しく食事をします。午睡前には絵本を読んでもらいます。いろいろな動物が出てくる絵本を読みながら、保育士が「これ何？」と聞くと子どもたちが「にゃんにゃん」と答え、言葉のやりとりが続きます。最後に「もうねんね」の絵本を読んでもらい「おやすみなさい」の挨拶で子どもたちはそれぞれの布団へ寝に行きました。

◆ 1歳児クラス（トコ組）

1歳児は月齢の低い子どもの小トコ組と、月齢の高い子どもの大トコ組に分かれています。おやつの後にはリズム遊びをします。音楽に合わせて様々な動物の格好をして、身体を動かします。最後は「芋虫ごろごろ」でさなぎから蝶々になるまでの動きをして「はいポーズ！」と決めます。園庭遊びでは、子どもたちは、三輪車を乗り回したり、フラフープを使って汽車ごっこをしたり、転がして遊んだり、砂場でままごとをしたりして、楽しめます。トイレでは、子どもたちは、出ても出なくても便器に座ります。一人でズボンをおろせない子どもは、保育士に少しだけ下ろしてもらいます。自分でできる子どももいます。

午睡後の自由遊びでは、子どもたちは、ブロックやおままごと、自動車などで遊びます。ブロックを自分の背の高さぐらいまで高く積み上げている子どもがいます。周りの子どもも保育士も応援しています。隣の子どもが触ると倒れてしまいがちですが、もめることもなくまた積み始めます。布を並べて家に見立て人形を並べておうちごっこをしている子どもたちの横では、おままごとをしているグループがいます。保育士にテーブルを斜めにしてもらい自動車を走らせている子どももいます。保育士に見守られ、どの子どもたちもそれぞれの世界を楽しんでいます。

◆ 2歳児クラス（チョロ組）

チョロ組は、トイレトレーニングの最中でパンツの子どもとオムツの子どもがいます。パンツの子どもは自分で足首までパンツをおろし、座ってトイレを済ませます。オムツの子どもは、自分でオムツを脱ぎ、トイレに座り、出ると保育士に「すごいね」と誉めてもらいます。子どもたちは皆、自分でズボンをはくことが出来ます。朝のおやつの後には、各自でカゴにコップを入れ、手と口を洗います。子どもたちは、きちんと自分で腕まくりをして石鹸で手を洗い、口を手で拭いています。

観察日は散歩に出かけました。二人一組で手をつなぎ、自分の前に誰がいるのかを一組ずつ確認してから出発します。横断歩道では、車が来ないか確認してから手を上げて渡ります。公園では滑り台を楽しんだり、切り株をのぞいたり、その上にぎんなんや葉っぱを乗せたりして遊びます。保育士が霜柱を発見して、「霜柱っていいね」と伝えると、子どもたちは触ってみます。子どもたちは「冷たいね」「こっちにもある」「ふむとザクッという」などと話しながら、霜柱を持ったり、保育士につまんで渡したり、

見つけたり、踏んで音を楽しんだりして夢中になって霜柱で遊びます。「氷って冷たいね」溶けている所を見つけて、「ドロドロだね」「チョコレートみたい」「食べたい」などと話しています。

給食前の絵本でも「黄色くて皮をむいて食べるよ。何かな？」と保育士が聞くと、「バナナ！」と子どもたちが答えます。一つ一つクイズのような言葉のやりとりが続き、子どもたちは集中し絵本を楽しんでいます。

◆3 歳児クラス（ズンズ組）

朝登園した子どもたちは、2人で「ここは寝る部屋」「そこは僕が作った所」などと会話しながら遊んだり、1人でブロックの電車を作ったり、2人で並んでお勉強ごっこと称して何かを書いて遊んだり、思い思いに好きな遊びをしています。人形に服を着させて哺乳瓶でミルクをあげる真似をして遊んでいるグループは、人形やぬいぐるみに洋服を着せてベッドに寝かせたり、お料理をしたりと、お世話をしているのに夢中になっています。朝の挨拶の後にお当番2人が前に出て、名字も言ったり、自分の名前に「くん」や「ちゃん」を付けない名前の言い方を練習し、グング組になったらがんばりたいことを質問されて答えます。

観察日は紙で出来た手袋にあってある10個の穴に2本のひもを通す制作です。説明を聞いたあと、保育士から紙をもらい、穴通しが始まります。穴が10個あるので、どの穴なのか混乱して分からない子どもは、保育士と一緒に見本と見比べて確認したり、穴を一つずつ触って確認しながらひも通しを進めていきます。子どもたちは「あってる？」と確認しながら、1つ1つの作業を行います。全部通し終わった子どもが友達に教える姿もあります。1本のひも通しが終わったところで、のびをしたり、ジャンプをしたりして集中力を高めて、2本目に集中して取り組むことができました。

◆ 4 歳児クラス（グング組）

朝の自由遊びでは、園庭で好きなことをして遊びます。人気のタイヤブランコでは、3人が交代に乗り、ぐるぐると回してスピードを楽しみます。3輪車に乗った2人の子どもは後ろから保育士にこいでもらい楽しんでいます。輪の中の子どもを、外からボールをぶつける遊びをしているグループもいます。砂場では、大きな山や、穴を作っています。子どもたちは元気いっぱいにのびのびと遊んでいます。

観察日は誕生会で、3・4・5歳児が合同で双六をして遊びました。双六は、大きな模造紙に円が10数個描かれて線で順次結ばれていて、「かかし」では、1本足で立つ、「笑う」では大声で「わっはっは」と笑うと、指示が6つほど書かれています。大きな長方形のさいころを今月お誕生日の子どもが転がして、出た目の数だけ進み、止まったところに書いてあることを3歳児・4歳児・5歳児のどれかのクラスの子どもたちが演じます。4歳児全員でその場でジャンプ、3歳児全員で案山子の真似をして、1本足で立つ、などと演じていき盛り上がります。結果は、ゴールに到達した時点で演じた回数が一番多かった5歳児クラスが優勝ということになりました。最後に4歳児が歌を披露しました。

◆ 5 歳児クラス（パタパ組）

朝の会の前に、保育士のピアノに合わせて歌を歌います。子どもたちはピアノの最初の音を聞いただけで何の歌かわかり、大きく口を開けて歌っています。絵本「おには外」の読み聞かせでは、子どもたちは集中して聞いています。保育士が再度ページをめくって絵を見せると子どもたちがそれぞれ感じたことを話します。

読み聞かせの後に、子どもたちがローラーで染めた画用紙を用いて鬼の面を作ります。見本を見せながらの説明を聞きながら、頭の形を切って耳、角、目(白目と黒目)、鼻、口、眉毛、髪と段階ごとに進めていきます。作っているうちにだんだん子どもたちの個性が出てきて、目一つをとっても四角、三角、笑った目、つり上った目など様々な目がつき、個性豊かな鬼が並びました。

給食は、白衣と帽子をかぶった当番がデザートとごはんをよそい、グループごとに並んで取りに行きます。配膳が終わると保育士がメニューを見せてメニューの発表をし、子どもたちが三色のどれに当たるかを答えていきます。テーブルごとにおしゃべりをしながら楽しく食事をしました。

事業者コメント

明神台保育園は今年の8月で創立56年を迎えます。“のびのび遊ぶ元気な子”をモットーに日々の保育を進めて参りました。

第三者評価の受審にあたり、今までの自分たちの保育を振り返ることが出来、良かったと思います。先ず、評価機関からの自己評価項目に対し全職員で取り組んだのですが、項目によっては、判然をしないところもある為、初めはいくつかのグループに分かれ、判らない点や確認したい点等、互いに意見を交わし乍ら絞り込み、更に数回にわたる職員会議で、あがった疑問点を話し合い、内容を深め、最終的には園内研修で、各項目全ての確認を職員全員で行い、自己評価を致しました。

この作業にあたり日々の保育活動を改めて明文化し、職員間で確認し合い共有出来た事は、園全体の保育の在り方、子どもと向き合う姿勢、子どもにとってのより良い保育とは何か！を再度考え、保護者とのコミュニケーションの取り方、地域に開かれた園の在り方等を見直す良いきっかけとなりました。

又、実際に評価機関の方々に普段の保育を観て頂き、保育全般においては概ね良好との評価を頂いた上で、“更に日々されている保育内容をもう少し明文化されると、今後入って来る保育士さんに引き継ぐうえでも、保育の振り返りをする上でも良いでしょう”とのアドバイスを頂きました。

そして、地域の方々と、とても良い関係であるとの評価を頂いてとても嬉しく思いました。思えば創立より56年、地域の方々と共にあり、何かと云えば色々とお助けを頂いて今日があるのだという思いが致します。今後も地域の方達と共に愛される保育園でありたいと願っています。

保護者の方々の利用者アンケートでは、貴重なご意見や、私共が考えていた以上の優しい思いやりのある励ましを頂いて、大変有難く思いました。職員一同、より一層努力をして参りたいと思います。

明神台保育園
園長 土師 幸子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見ることができます ～

●市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

●横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.lg.jp/kenkou/fukushi/>

●かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.knsyk.jp/search/3hyouka/index.html>



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0011 横浜市中区太田町4-49 NGS横濱馬車道802号室

TEL : 045-222-6539/6501 FAX : 045-222-6502 <http://www.shimin-sector.jp>